

金融市場動向

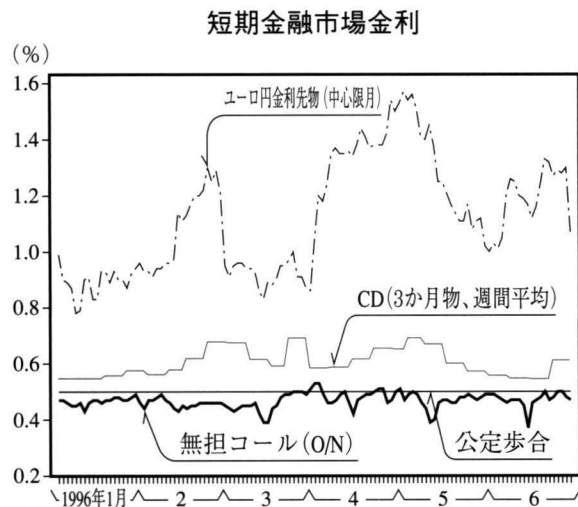
— 平成8年6月 —

(平成8年7月15日)

1. 短期金融市場

6月中の無担コール・オーバーナイト物レートは、概ね公定歩合をやや下回る水準で推移した。CD（譲渡性預金）3か月物レートは、下旬からやや強含み、月末には0.6%まで上昇した。ユーロ円金利先物中心限月（3か月物、金利ベース）は、中旬から下旬にかけて一時的に上昇し、1.3%台をつけた後、月末には1.0%台まで低下した。

コール・プロパー手形市場資金平均残高（全国）は、39兆7,586億円と前月（40兆110億円）に比べ減少した。

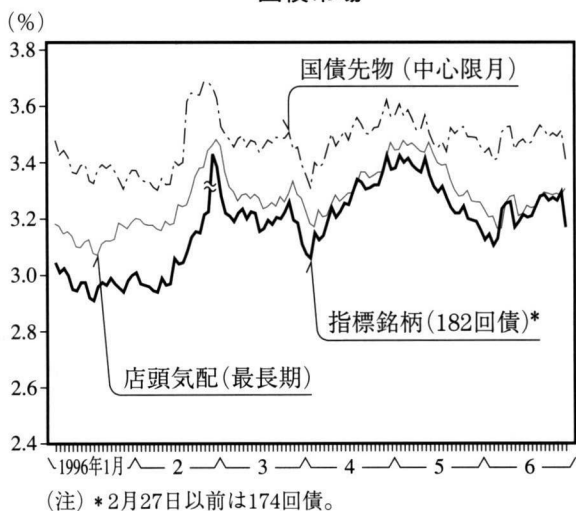


2. 資本市場

6月の長期国債利回り（指標銘柄利回り）は、

中旬から下旬にかけて、市場における金利先高観等を背景に一時的に上昇したが、月末には下落し、前月末とほぼ同水準の3.170%で越月した（前月末3.160%）。国債先物中心限月利回り（96年9月限）は3.411%（終値119.30円）で越月した（前月末3.456%＜終値118.90円＞）。国債の出来高は、現物（店頭取引）、先物ともに前月を下回った。

既発債市場利回り
— 国債市場 —

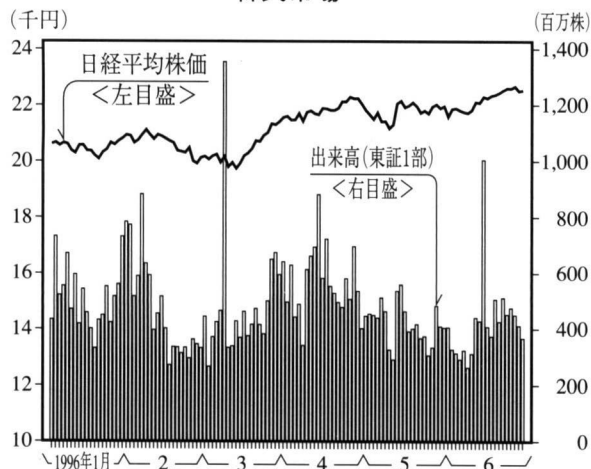


6月の株式市況（日経平均株価）は、中旬から上昇し、22,530円で越月した（前月末21,956円）。株式出来高（東証1部、月中1営業日平均）は、4.25億株（速報）と前月（4.21億株）をやや上回った。

8月公表予定の「金融市場動向（平成8年7月）」から、概況文およびチャートを廃止し、計表（日本銀行月報「主要経済指標」のうち、「国内2. 金融」に収録）のみとすることとしましたので、お知らせします。

なお、金融市場の動きにつきましては、「金融経済概観」の記述をご参照下さい。

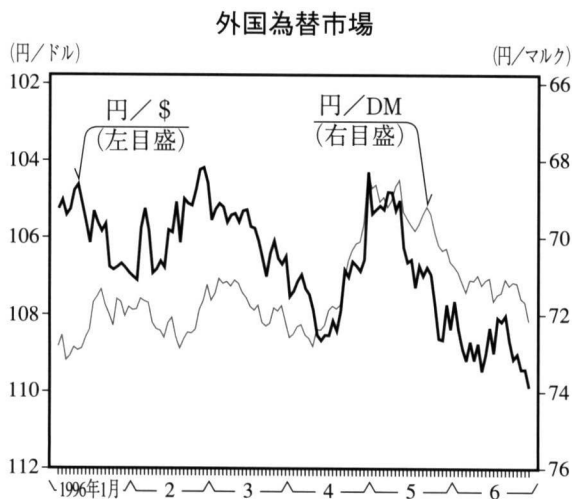
株式市場



6月の国内公募普通社債は、前月の発行額を下回ったものの、市場における金利底打ち感等を背景に、引き続き高水準の発行となった(5月6,820億円→6月4,770億円)。一方、国内エクイティ市場での発行(増資を除く)は、前月上回る発行額となった(5月1,120億円→6月2,325億円)。

3. 外国為替市場

6月の円の対米ドル直物相場(東京市場)は、



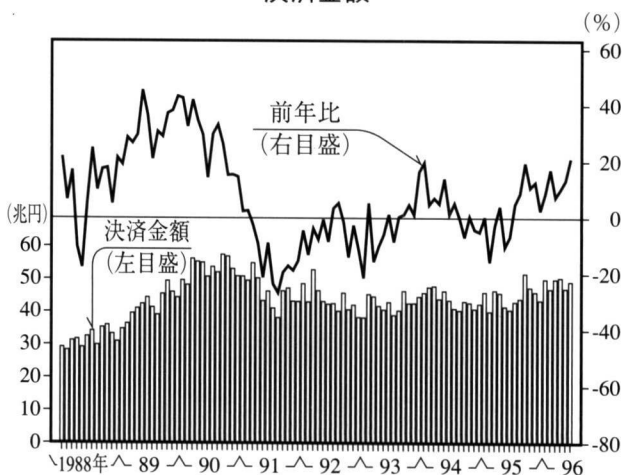
日米金利差等に着目した根強い円売りから、月末にかけて下落基調で推移し、109.88円(17時時点)で越月した(前月末108.37円)。また、円の対独マルク直物相場(東京市場)も、72.16円(17時時点)で越月した(前月末70.62円)。

この間、東京外国為替市場の出来高(円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均)は251.8億ドルと、前月(214.6億ドル)を上回った。

4. 決済

6月の資金決済の金額(1営業日平均)をみると、手形交換高(東京)、全銀システム取扱高ともに前年同月上回った(手形交換高:前年比+1.5%、全銀システム取扱高:同+4.1%)。また、外為円決済交換高も前年同月上回った(同+30.0%)。この間、国債の決済金額(1営業日平均)については、移転登録は前年同月上回った(同+10.6%)が、振込口座振替は前年同月を下回った(同△10.2%)。

決済金額



(注) 1. 1営業日平均。
2. 手形交換高(東京)、全銀システム取扱高、外為円決済交換高の合計額。

5. 資金需給、金融調節

6月の資金需給をみると、銀行券要因は2兆7,769億円の不足（前年同月2兆7,811億円の不足）、財政等要因が2兆9,269億円の余剰（同1兆6,729億円の余剰）となったことから、全体では1,500億円の余剰（前年同月1兆1,082億円の不足）となった。

こうした状況下、日本銀行は買入手形期日落ち等により資金を吸収した。

7月の資金需給（国債発行織り込み前）を窺うと、銀行券要因は月中5,000億円程度の余剰（前年同月6,143億円の余剰）となる見通し。財政等要因は、国債の償還等の支払いが見込まれるものの、夏季ボーナス等に係る源泉所得税を中心とする税揚げ等が嵩むこと^{かさ}から、900億円程度の不足（前年同月2,254億円の不足）となる見通し。この結果、全体では、4,100億円程度の資金余剰（同3,889億円の余剰）となるものと予想される。

6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

5月のM₂+CD平残前年比伸び率は+3.3%（速報）と前月に比べ0.3%ポイント上昇した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+3.9%（速報）と前月に比べ0.4%ポイント上昇した。

6月の銀行券平残前年比は+10.6%と前月（+9.5%）に比べ上昇した。

6月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残（実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+3.0%と前月に比べ0.9%ポイント上昇した。一方、総貸出平残（都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+1.4%と、前月に比べ0.1%ポイント低下した。

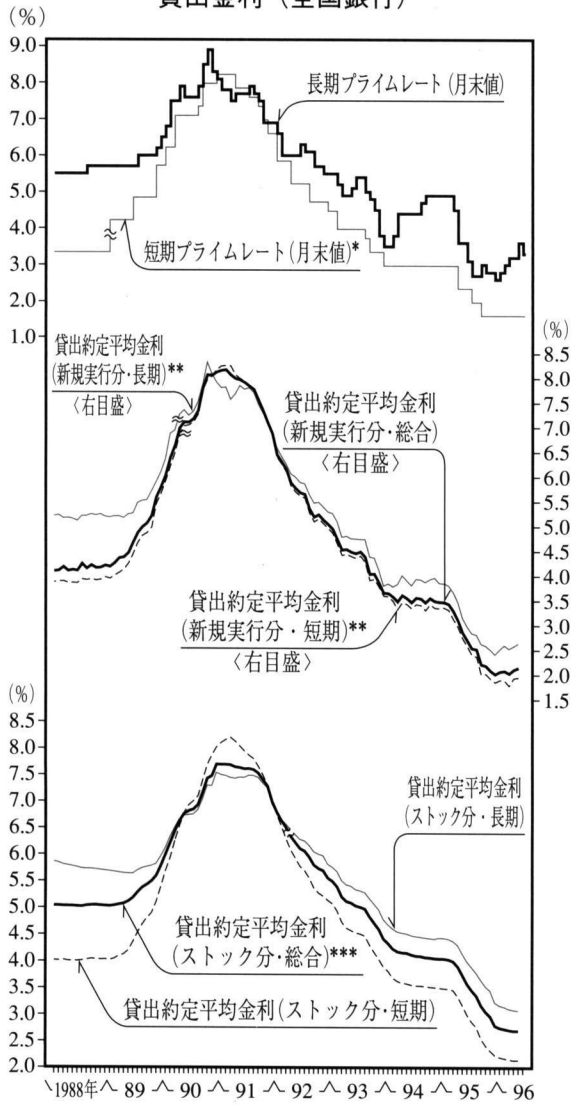
7. 貸出・預金金利

5月中の貸出約定平均金利（全国銀行）をみると、新規実行分は、短期、長期ともに2か月連続の上昇（短期：前月比+0.015%、長期：同+0.058%）となったことから、総合でも2か月連続で上昇した（同+0.039%、4月2.107%→5月2.146%）。

また、ストック分については、長期が低下（前月比△0.011%）したが、短期が62か月ぶりに上昇（同+0.002%）したため、総合では横這いに転じた（4月2.694%→5月2.694%）。

この間、5月の定期預金金利（1千万円以上、3か月以上6か月未満の全銀新規受入金利平均）は、前月に比べ上昇した（4月0.521%→5月0.523%）。

貸出金利（全国銀行）



(注) * 1989年1月以降は都市銀行の中で最も多くの銀行が採用した金利。

** 1990年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

*** 1992年4月以降は当座貸越を含む。

(調査統計局)